

A c a n t h u s

第70号

平成26年7月8日

←太平洋戦争後期の
阿見周辺図

(霞ヶ浦海軍航空隊HPより転載)

茨城県立土浦第一高等学校
進修同窓会旧本館活用委員会
HP <http://www.sin-syu.jp/>



霞ヶ浦（その6）～ノビレ少将と愛犬チチナ（ティティーナ）～

1927（昭和2）年1月にN3号半硬式飛行船をイタリアから運び、組み立てたのがノビレ少将でした。彼は自ら設計した半硬式飛行船N1号（ノルゲ号）を操縦し、ノルウェーの探検家アムンゼン（1911年に人類史上初めて南極点到達）と共に、1926年5月12日北極横断に成功しています。ノビレ少将は霞ヶ浦海軍航空隊に滞在していますが、同年3月10日午後2時より土浦中学雨天体操場に於いて、真鍋在郷軍人分會主催の「北極探検に関する講演」をおこなっています。

北極探検

ウンベルト・ノビレ少将（1885～1978）はイタリア南部のアペリノに生まれ、ナポリ大学で工学を学んだ後、イタリア陸軍航空隊の航空技術者として、飛行船の設計開発に携わっていました。1925年6月、北極探検用の航空機を探していたアムンゼンの求めに応じ、ノビレ少将は、自分で設計・建造した半硬式飛行船N1号を売却（ノルゲ号と改名、ノルゲはノルウェーの意）、さらに自身の手で操縦して見ようということになり、1926年4月10日、ローマを出発、ノルウェーに向かいました。4月14日、探検のリーダーであるアムンゼン、資金を提供したアメリカの探検家エムスウォースなど、総勢16名の隊員とノビレの愛犬チチナを乗せてオスロを出発し、キングスベイを経由して、寒いが昼ばかりのスピッツベルゲンに到着。そこから5月11日の朝、北極へ向かいました。5月12日午前1時30分、人類史上初めて北極点上空に到着し、北極の真上からアムンゼンがノルウェー国旗を、エムスウォースがアメリカ国旗を、ノビレがイタリア国旗・ローマ市旗・ファシスト旗などを投下しました。ノビレはイタリア首相のムッソリーニに無事使命を果たした旨を無線で報告した後、人類未踏の氷原の上を飛行し、アラスカのバローに向かいましたが、天候悪化のためテラーというエスキモー集落に着陸を余儀なくされました。北極点から72時間の飛行でした（この飛行コースは地理の授業で使う地図帳に記載されています）。

この探検飛行に同乗し、初めて北極点を飛んだ犬がチチナです。チチナは白にアメ色のぶちのあるフォックステリアで、

生まれてまもなくローマの街角に捨てられていたのを、ノビレ少将の従者に拾われ、少将の愛犬となりました。以後、常に少将のお供をするようになり、飛行船にも200時間以上同乗しています。ただ北極探検では、飛行は困難を極め、スピッツベルゲンから北極へ出てアラスカへ到着するまで、まる3日間、食事もできず、ただ少将のわきにじっと蹲っていただけだったようです。しかし、北極点を飛んだ後は、『小さき英雄チチナ』として世界的に知られ、東京朝日新聞でも来日直後の1927（昭和2）年1月26日の夕刊で「愛犬チチナ物語 北極征空の小さき英雄 ノビレ将軍にお供したチチナの喜び」との見出しで特集記事を掲載しています。

N3号飛行船

日本海軍が、イタリアから飛行船N3号半硬式飛行船（ノルゲ号の姉妹船）を輸入し、その組立と操縦術教授の任につくために、同船の開発・設計・建造にたずさわったノビレ少将が愛犬チチナと共に、1927（昭和2）年1月25日午後1時、横浜港に到着しました。以後の少将とチチナの動向を、当時の東京朝日新聞の記事からたどってみます。（以下の朝日新聞の見出し）

来日したノビレ少将一行は、1月27日午後、常磐線の列車で荒川沖駅に到着。出迎への自動車にて、霞ヶ浦海軍航空隊に入りました。これより先、霞ヶ浦海軍航空隊では一行を空中から歓迎すべく、同隊の一型5号飛行船を藤吉大尉等の乗員が操縦し、午前11時霞ヶ浦を出発、常磐線上空に至り、一行の汽車を出迎え、共に霞ヶ浦に帰着しています【ノビレ少

将の一行霞ヶ浦へ 愛犬チチナを連れてN3号組立に乗り込む】。

東京朝日新聞は、早くからノビレ少将とチチナに関心を寄せていたらしく、イタリア出発前に東京と大阪での講演を依頼しています。いわば有名人の独占記事掲載を企画していたのでしよう。2月19日にはチチナも含めた招待の宴を催し【チチナもお膳に 昨夜本社が紅葉館にノ少将招待】、20日には東京青山会館で少将の講演会を主催しています（東京に先立ち、大阪朝日会館でも講演会を主催しています）。講演はスライド上映入りで行われ、少将の講演中チチナは演台の上でビクターの広告の犬そっくりの姿で「ヒズ・マスターズ・ヴォイス」を聞いていました【聴衆あふれた 昨夜ノビレ少将北極探検の講演 地獄篇の如き大映画を見つつ北極に誘い込まれた満堂三千人の感激】。

さらにノビレ少将は、3月10日に土浦中学雨天体操場で、真鍋町在郷軍人分會主催の講演会も行っています（詳細後述）。



N3号飛行船

昭和2年4月から日本最初の半硬式飛行船として就航。同年10月23日、海軍大演習参加中乱気流に巻き込まれ、伊豆神津島に不時着、乗員8名は脱出しましたが、その直後爆発炎上してしまいました。このN3号の代船として国産3式飛行船が建造されました。

(霞ヶ浦航空隊HPより転載)

一方、N3号飛行船の組立作業は、作業場となった押収格納庫の扉が開かなくなるなど種々のトラブルに見舞われ、遅れが出ていましたが、ようやく終了し、4月6日進空式が行われました。午前10時25分、押収格納庫から引き出されたN3号飛行船は少将の操縦により霞ヶ浦飛行場を離陸後、土浦上空に飛来し、高度200mで数回旋回、全町民から歓呼の声があげられました。その後、常磐線に沿って飛行し、千葉県我孫子上空で引き返すと、さらに霞ヶ浦を一周して、午後12時10分に着陸、無事進空式を終えました。【海軍旗船尾に翻りエヌ3号の進空式 待たれた晴れの初飛行に けさ霞ヶ浦上空の壮观】その翌日の7日には、少将が、昭和天皇、皇后両陛下のお召しを受け、午後7時から赤坂離宮において「北極飛行について」の講演を行っています。さらに28日早朝には、その雄姿を東京上空に現し、約1時間にわたる旋回飛行の後、9時45分霞ヶ浦上空に帰還しました。東京朝日新聞では、行程100kmにおよぶ訪欧飛行で偉大な記録を樹立した本社機初風号を立川飛行場から飛ばし、機上からの取材と写真撮影を行いました【エヌ3号来る雄姿を帝都の空へ 船上のノビレ少将から本社へメッセージ】怪物を迎えて 初風機上から見物（北川写真課員記）。



旧本館玄関前記念写真
(本校旧本館所蔵資料より)

一枚の写真

本校旧本館のロッカーの奥に一枚の写真が残っていました。外国人男性7名を前列に旧本館の玄関で撮影されたものです。右下に「常陸土浦町まなべ石塚寫真館」のロゴが入っています。裏書きには「真鍋分會小〇校」、「土浦中学〇校長へ」とだけ記されています（〇は不明な文字）。人物名や年月日は記されていませんが、大正15年度（大正15年4月）昭和元年（昭和2年3月）教務日誌の昭和2（1927）年3月10日（木）に「毎時30分（短縮）授業として午後1時より本校雨天体操場に於て、ノビレ少将の講演 真鍋在郷軍人会分会主催を聴す」と記入されていることや、「進修26号」本校記事の欄に「昭和2年）3月10日 午後2時より雨天体操場に於いて、真鍋在郷軍人会分会主催の『ノビレ少将の北極探検に関する講演あり』との記事が記載されており、その時に撮られた写真と思われる。前列左から3人目にノビレ少将が、左端の人の膝の上にチチナが写っています。

この写真を発見した久保田高広氏（高校33回卒）は「ノビレ少将一行と講演会参加者の記念写真と思われる。ノビレ少将の両脇の女性は、袴姿から真鍋小学校の先生の方です。削り取られている人たちは、わずかに残っている軍帽の角や軍服の詰め襟、カーキ色と思われる軍服の色から、陸軍の人たちで、真鍋在郷軍人会の方々ではないでしょうか。終戦直後、学校関係者が進駐軍の追求を恐れ、削り取っています。しかし海軍のネイビーブルーの外套を着た人（2列目右から3番目）は、軍帽を着用していませんので一般人と思われる、消去されずに残ったと考えられます。外套の肩に付けられた階級章は桜1つの少佐なので、ノビレ少将滞在中に通訳を務めていた航空隊の大谷少佐ではないでしょうか」と語ってくれました。

日本帝国陸軍が勝利し、奉天、現在の瀋陽を占領して奉天城に入城した日を記念して設けられた）であり、その催しものとして、少将の講演会を企画したのでしよう。まだ航空隊との関係も良好な頃で、少将も地元ということで引き受けたのだと思います。講演の内容は2月に行われた大阪や東京の講演とほぼ同じ内容と思われませんが、傍聴した生徒の感想文などが何故か進修誌上に掲載されており、こちらにもよく分かりません。

北極再探検・遭難

日本から帰国したノビレ少将は1928（昭和3）年、ファシスト政権からの国家援助によって設計・建造した飛行船イタリア号で2度目の北極探検に挑みました。隊員16名とともに北極点に到達しましたが、5月25日、飛行船が墜落して遭難、ゴンドラ部分と気囊部分が分離してしまいました。生存者たちが無線機でSOSを発信すると、国際的な救援活動が開始され、6月末までにノビレ少将以下8名の隊員と愛犬チチナが救出されましたが、飛行艇ラタム47で捜索に赴いたアムンゼンが遭難、行方不明となってしまいました。（高21回 松井泰寿）

予科練平和記念館 第4回企画展

写真で見る阿見町と航空隊

平成26年6月3日（火）～8月31日（日）

日本初の飛行練習部隊である「霞ヶ浦海軍航空隊」、土浦・阿見間を走っていた鉄道風景など、往事の阿見町の様子が紹介されています。本号で取り上げたノビレ少将の紹介コーナーもあります。

約一ヶ月後に天皇・皇后両陛下の前で講演をすることになる人物が、なぜ土浦中学でも講演を行うことになったのか、その辺の詳細は分かっています。しかし、いはらき新聞3月2日の夕刊に【ノビレ少将 北極探検講演 10日土中で】との見出しで、「エヌ3号航空船組立のため、霞ヶ浦航空隊に滞在中のウンベルト・ノビレ少将は真鍋町在郷軍人会の招きに応じて、3月10日の陸軍記念日に午後2時から土浦中学校で講演を行うが、北極探検に際して撮影した幻燈及び活動写真も公開するはずである」との記事が掲載されているところから、真鍋町在郷軍人会では、3月10日が陸軍記念日（1905年3月10日に、日露戦争の奉天会戦で大